



# 平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月10日

上場会社名 技研興業株式会社

上場取引所 東証市場第二部

コード番号 9764 URL <http://www.gikenko.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中瀆 昭人

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 澁谷 英夫

TEL 03-3398-8500

四半期報告書提出予定日 平成23年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	6,233	△7.6	△284	—	△283	—	△354	—
22年3月期第3四半期	6,748	24.8	52	—	52	—	15	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	△21.59	—
22年3月期第3四半期	0.93	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	8,349	5,018	60.1	306.12
22年3月期	8,549	5,411	63.3	329.75

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 5,018百万円 22年3月期 5,411百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
23年3月期	—	0.00	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	2.00	2.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

## 3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,500	△0.0	100	△36.3	90	△36.6	15	△84.8	0.91

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年3月期3Q 16,640,000株 22年3月期 16,640,000株

② 期末自己株式数 23年3月期3Q 246,549株 22年3月期 229,420株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年3月期3Q 16,403,029株 22年3月期3Q 16,448,524株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、四半期決算短信（添付資料）2ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	2
2. その他の情報 .....	3
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(5) セグメント情報 .....	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日～至平成22年12月31日）におけるわが国経済は、年度当初からの諸外国の経済情勢の改善や政府による経済対策の効果等により緩やかな回復傾向にあったものの、輸出の伸びの鈍化、急激な円高の影響等により、次第に減速感が強まってきているのに加え、雇用情勢は改善されず、個人消費や企業の設備投資に対する姿勢は依然慎重であり、景況感は先行きの不安感を払拭しきれないまま推移しました。

当建設関連業界におきましては、設備投資に対する慎重な姿勢や公共投資の継続的な縮減等により総じて低調であり、業者間の受注競争も激化し引続き不透明な受注環境が続いております。

このような環境のなか、当企業集団は、積極的な営業活動で攻めの経営を貫くとともに、顧客のニーズに即した効率的な提案営業を強化したものの、一部の事業部門において受注が鈍化し、当第3四半期連結累計期間の受注高は7,400百万円（前年同期比14.0%減）となりました。

売上高は、一部の事業部門で工事の進捗が遅れが見られるほか、受注の減少が売上高に影響したため、6,233百万円（前年同期比7.6%減）にとどまりました。

利益面につきましては、業務の効率化や聖域なきコスト削減を引続き実施しておりますが、効果が具現化するまでには至らず、また、比較的採算性のよい事業部門の売上が低調であったため、当第3四半期連結累計期間の営業損益は、284百万円の営業損失（前年同期は52百万円の営業利益）、経常損益は283百万円の経常損失（前年同期は52百万円の経常利益）、四半期純損益は354百万円の四半期純損失（前年同期は15百万円の四半期純利益）の計上を余儀なくされました。

当企業集団の前期繰越受注高、当期受注高、当期売上高及び次期繰越高は次のとおりであります。

期間別	前期繰越受注高 (千円)	当期受注高 (千円)	当期売上高 (千円)	次期繰越高 (千円)
前第3四半期連結累計期間	2,914,959	8,609,993	6,748,839	4,776,113
当第3四半期連結累計期間	3,322,978	7,400,363	6,233,077	4,490,265

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末（平成22年12月31日）における総資産は、前連結会計年度末（平成22年3月31日）に比べ199百万円減少し、8,349百万円となりました。流動資産においては、前連結会計年度末の営業債権の回収により生じた資金の利用、また、未成工事支出金の減少等により前連結会計年度末に比べ395百万円減少し、4,544百万円となりました。また、固定資産においては、新規に取得した事業用固定資産（賃貸住居用土地建物）があったこと等から前連結会計年度末に比べ195百万円増加し、3,805百万円となりました。

一方、負債合計は、前連結会計年度末に比べ193百万円増加し、3,331百万円となりました。流動負債においては、短期借入金の新規借入等により前連結会計年度末に比べ101百万円増加し、2,824百万円となり、固定負債においては、社債の新規発行等により91百万円増加し、507百万円となりました。

純資産は、当第3四半期連結累計期間の四半期純損益が354百万円の四半期純損失となったこと等により前連結会計年度末に比べ393百万円減少し、5,018百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ3.2ポイント減少し、60.1%となりました。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間においては、各事業の受注状況にややばらつきがあり、また、工事の進捗が現時点では遅延しておりますが、当連結会計年度末には概ね当初の見通し程度には回復すると想定していることから、通期の業績予想に変更はありません。

建設業界をとりまく状況は依然として厳しい状況が続いておりますが、今後更に経営資源の取捨選択を高め、組織や間接部門を含めた全般的な見直しと削減を継続して実施し、全社一丸となって受注と利益の確保に邁進してまいります。

なお、業績予想については、本資料の発表日時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

## 2. その他の情報

## (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

## (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
1. 一般債権の貸倒見積高の算定方法	一般債権の貸倒実績率については、前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末において算定した貸倒実績率を使用して一般債権の貸倒見積高を算定しております。
2. たな卸資産の評価方法	当第3四半期連結会計期間末のたな卸高の算出に関しては、実地たな卸を省略し、前連結会計年度末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。 また、たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。
3. 固定資産の減価償却費の算定方法	減価償却の方法として定率法を採用している固定資産の減価償却費については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しております。
4. 法人税等の算定方法	法人税等の納付額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。
5. 退職給付費用の算定方法	退職給付費用は、当連結会計年度の退職給付費用を期間按分して算定する方法によっております。

## (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
会計処理基準に関する事項の変更	(資産除去債務に関する会計基準の適用) 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。これによる営業損失、経常損失、税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。
表示方法の変更	(四半期連結損益計算書) 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純損失(△)」の科目で表示しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	1,170,961	937,473
受取手形・完成工事未収入金等	2,819,210	3,366,636
未成工事支出金	105,702	202,908
その他のたな卸資産	234,687	232,437
その他	248,517	240,733
貸倒引当金	△34,730	△39,980
流動資産合計	4,544,349	4,940,208
固定資産		
有形固定資産		
土地	2,126,587	1,918,170
その他(純額)	1,325,576	1,311,340
有形固定資産計	3,452,163	3,229,510
無形固定資産		
のれん	13,643	21,829
その他	22,564	33,907
無形固定資産計	36,208	55,737
投資その他の資産		
投資有価証券	160,921	194,771
その他	242,004	279,593
貸倒引当金	△85,755	△150,070
投資その他の資産計	317,170	324,294
固定資産合計	3,805,542	3,609,542
資産合計	8,349,891	8,549,751
<b>負債の部</b>		
流動負債		
工事未払金等	981,291	1,202,961
短期借入金	1,161,976	811,376
未払法人税等	22,075	32,277
未成工事受入金	274,879	327,581
引当金	46,431	91,053
その他	337,935	258,042
流動負債合計	2,824,588	2,723,293
固定負債		
社債	120,000	40,000
長期借入金	175,248	148,280
退職給付引当金	89,098	96,419
その他	122,670	130,323
固定負債合計	507,017	415,022
負債合計	3,331,606	3,138,315

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,120,000	1,120,000
資本剰余金	1,473,840	1,473,851
利益剰余金	2,424,259	2,811,335
自己株式	△30,365	△29,323
株主資本合計	4,987,734	5,375,863
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	30,551	35,572
評価・換算差額等合計	30,551	35,572
純資産合計	5,018,285	5,411,435
負債純資産合計	8,349,891	8,549,751

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	6,748,839	6,233,077
売上原価	5,829,121	5,629,951
売上総利益	919,717	603,126
販売費及び一般管理費	867,614	887,762
営業利益又は営業損失(△)	52,103	△284,636
営業外収益		
受取利息	1,646	1,523
受取配当金	5,316	5,855
物品売却益	12,802	13,823
受取補償金	142	440
その他	7,041	5,730
営業外収益合計	26,949	27,373
営業外費用		
支払利息	21,078	17,058
支払手数料	5,009	5,747
その他	924	3,714
営業外費用合計	27,012	26,520
経常利益又は経常損失(△)	52,040	△283,783
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	1,368
特別利益合計	—	1,368
特別損失		
固定資産売却損	19	—
固定資産除却損	766	1,591
投資有価証券評価損	—	25,424
事業構造改善費用	16,317	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	953
特別損失合計	17,103	27,969
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	34,936	△310,384
法人税、住民税及び事業税	19,551	19,151
法人税等調整額	7	24,657
法人税等合計	19,559	43,809
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△354,193
四半期純利益又は四半期純損失(△)	15,377	△354,193



## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	34,936	△310,384
減価償却費	163,746	117,554
のれん償却額	8,186	8,186
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△41,455	△69,564
賞与引当金の増減額(△は減少)	△40,462	△56,893
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△15,334	△7,320
受取利息及び受取配当金	△6,962	△7,378
支払利息	21,078	17,058
固定資産除売却損益(△は益)	785	1,591
投資有価証券評価損益(△は益)	—	25,424
事業構造改善費用	16,317	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	953
売上債権の増減額(△は増加)	668,043	607,172
未成工事支出金の増減額(△は増加)	△25,790	97,205
たな卸資産の増減額(△は増加)	380,844	5,580
仕入債務の増減額(△は減少)	△68,307	△220,326
未成工事受入金の増減額(△は減少)	495,542	△52,702
前渡金の増減額(△は増加)	△132,037	682
その他	54,455	36,510
小計	1,513,588	193,350
利息及び配当金の受取額	7,245	7,389
利息の支払額	△22,122	△17,345
法人税等の支払額	△25,291	△25,883
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,473,419	157,509
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	—	100,000
固定資産の取得による支出	△99,589	△333,775
固定資産の売却による収入	300	—
貸付けによる支出	△33,320	△81,350
貸付金の回収による収入	43,138	39,301
その他	1,005	4,917
投資活動によるキャッシュ・フロー	△88,465	△270,906
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	—	677,000
短期借入金の返済による支出	△553,600	△330,000
長期借入れによる収入	200,000	100,000
長期借入金の返済による支出	△30,000	△69,432
社債の発行による収入	—	146,442
社債の償還による支出	△40,000	△40,000
リース債務の返済による支出	△1,256	△3,769
配当金の支払額	△97	△32,241
その他	△3,237	△1,114
財務活動によるキャッシュ・フロー	△428,191	446,884
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	956,762	333,488
現金及び現金同等物の期首残高	296,700	528,473
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,253,463	861,961

## (4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報

(事業の種類別セグメント)

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

	土木関連 事業 (千円)	建築関連 事業 (千円)	型枠貸与 関連事業 (千円)	その他の 事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	2,070,336	2,076,380	1,960,745	641,376	6,748,839	—	6,748,839
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	6,250	1,341	7,591	(7,591)	—
計	2,070,336	2,076,380	1,966,995	642,717	6,756,430	(7,591)	6,748,839
営業利益	10,787	96,500	118,934	32,231	258,454	(206,351)	52,103

## (注) 1. 事業区分の方法

事業区分は損益計算書の売上集計区分を勘案して区分しております。

## (所在地別セグメント情報及び海外売上高)

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

在外子会社及び在外支店がなく、また海外売上高もないため該当事項はありません。

## (セグメント情報)

## 1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、一部の事業部を除き本社に種類別の事業本部を置き、各事業本部及び事業部は、取り扱う工事、商製品、サービス等について包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、事業本部及び事業部を基礎とした工事、商製品、サービス別のセグメントから構成されており、「土木関連事業」、「建築関連事業」、「型枠貸与関連事業」及び「ハウジング事業」の4つを報告セグメントとしている。各報告セグメントの事業の概要は以下のとおりであります。

土木関連事業	法面保護、急傾斜対策等の土木工事及び関連する土木工事事用資材等の販売
建築関連事業	放射線・電磁波シールド、電波吸収体関連の建築工事及び関連する建築工事事用資材等の販売
型枠貸与関連事業	消波根固ブロック製造用鋼製型枠の賃貸、建設資材のレンタル及びコンクリート二次製品・建設資機材・関連資材の販売並びに設計コンサルタント
ハウジング事業	戸建住宅等不動産の販売・リフォーム事業、一般住宅等の請負建築

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報  
 当第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	土木関連	建築関連	型枠貸与 関連	ハウジ ング	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	1,945,223	2,460,633	1,426,938	365,395	6,198,190	34,887	6,233,077	—	6,233,077
セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	—	—	4,930	—	4,930	1,341	6,271	△6,271	—
計	1,945,223	2,460,633	1,431,868	365,395	6,203,120	36,228	6,239,348	△6,271	6,233,077
セグメント利 益又はセグメ ント損失 (△)	△8,984	1,487	△78,083	△9,657	△95,238	18,007	△77,230	△207,405	△284,636

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸収入等でありま  
 す。

2. セグメント利益の調整額△207,405千円には、セグメント間取引消去△6,271千円、各報告セグメントに配  
 分していない全社費用△201,134千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない  
 一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21  
 年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平  
 成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。